

科目名(Subject)	経営史 (Business History)		
単位数(Credits)	2 単位	開講時期	前期
担当教員名 (Name)	高田 聡 (Satoshi TAKATA)	研究室番号 (Office)	535
Office Hours	適宜通知する		
<p>1. 授業目的・方法(Course objective and method) 企業活動の史的展開を対象とし、変化を促す企業内外における動因を探ることが最終的な目的である。考察対象の多くを 20 世紀の企業活動で世界的な基準を強力に指し示した米国に求める。経営の諸側面のなかでは、企業者精神、労働倫理、経営労務関係等、これらの人間的側面に検討の重点をおく。一次（英文）資料の分析もまじえたい。英語情報の吟味による分析力の滋養にも努めたい。</p> <p>2. 達成目標(Course Goals) 履修が、広い視野の形成とオリジナルなデータから等身大の像を導出しうる高度な技能の養成に資することを期待している。</p> <p>3. 授業内容(Course contents) 第I部 経営史学の対象と方法—主としてマックス・ヴェーバーの見方を参考に— 第II部 19 世紀以前の経営史—米国を中心に— 第III部 20 世紀をめぐる経営史の動向 （場合によっては自動車産業のケースが多く取り上げられる） 第IV部 日本経営史の特徴</p> <p>4. 事前学修・事後学修(Preparation and review) 予習 指定文献の当該箇所を読み、指示に従い、受講生各自がほぼ毎週レジュメやコメントを準備しておくこと。コメント等については授業担当者へのメール等での事前の送付を原則受講の条件とする。コメント等は授業当日クラス内で適宜回覧し、ディスカッションに資する。 復習 指定された文献を読み返す。 また、下記 8 欄の該当箇所も参照。</p> <p>5. 使用教材(Teaching materials)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テキスト文献は入手事情等が確定次第、使用方針に関する情報も含めて、別途指示する。 ・ 必要に応じて資料も配付する。 ・ 参考文献についてはその都度指示する。 ・ 教材には英語のそれも多く含まれる予定。 <p>6. 成績評価の方法(Grading) 原則は以下。出席：10%、各回の提出課題：40%、参加：20%、最終試験（場合によっては長文レポートも）：30%。</p> <p>7. 成績評価の基準(Grading Criteria) 講義初頭に説明する。</p> <p>8. 履修上の注意事項(Remarks)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義は、報告・質疑応答、等において、適宜、日本語と英語を併用する場合がある。 ・ 履修者にはディスカッション等において授業への積極的な参加姿勢を求める。 ・ 十分な予習を欠く受講は実質上何らの学習成果も期待し得ないこと、留意されたい。ほぼ毎講義ごとに相応の分量（含む：英語文献）の予習が肝心となる。 ・ 上記各項目には受講生数等の状況により変更・調整がありうる。講義初頭に運営の細目を説明する。 			